



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介しします。今回は、地域における消防防災に関して、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担う消防団員、第24分団平野第1部1班の紺野高弘さんにインタビューしました。

🍷 入団したきっかけは？

消防団に長く参加していた父親が平成23年3月に辞めるため、入団を勧められたのがきっかけです。活動内容は父から聞いていて、地域の知り合いも多数参加していたため、入団に抵抗はありませんでした。自分が地域の役に立てるなら、という気持ちで平成23年4月に入団しました。

🍷 活動内容は？

主に、火災や災害発生時に現場へ駆け付け、土地勘を生かした消火・救助活動や避難誘導です。消防隊員が最前線で活動する際のバックアップを消防団が行います。

また、年に2回の火災予防週間に地域一軒一軒を回り、火の用心を呼び掛けています。これは実



消防団第24分団平野第1部1班
団員 紺野高弘さん

際に自分の足で歩くため、地域の現状把握にもなっています。

あとは、消防団の動力を生かした「人の捜索」も行います。最近では認知症により徘徊する方の捜索が多いです。地域や行政と連携した徘徊捜索訓練も始めたところです。

🍷 大変だったことは？

入団して6年経ちますが、有り難いことに、本当に大変だったという記憶はありません。地域が平和な証拠ですね。消防団で活動していた父を見ていた頃は、父自身や家族優先ではなく「地域のために一頑張っている姿に、大変だな」と思っていました。自分がその立場になってみて、地域の方から「苦労さま」とありがとう」と声を掛けてい

🍷 これからの活動は？

1月7日(日)には消防出初式があります(P10参照)。消防団の活動は命に関わるため、意思統一と規律がしっかりと統制されています。それは整列や敬礼、行進などに表れ、その姿を見られるのが消防出初式です。

1月21日(日)には「文化財防火デー」の活動で地元の医王寺で消火訓練も行われます(P10参照)。文化財の消火訓練は、なかなかできない経験なのでしっかりと取り組みたいです。

消防団に入って、機械の操作や現場での行動・心構えなど全て、経験豊富な先輩方から教わってきました。これからは、先輩方から受け継いだことを、しっかりと後輩につないでいきたいです。

ふくしま冬の風物詩

「いかにんじん」を作ってみよう！



福島市を中心に、県北で古くから愛されている郷土料理「いかにんじん」。正月などを中心に各家庭で作られています。いかにんじん味のポテトチップスも発売されるほど、福島市民に愛される「いかにんじん」のレシピをご紹介します！ぜひ皆さんが集まるお正月にご家庭で作ってみてはいかがでしょうか？

■作り方

- ①スルメは横に3～4cm間隔で3～4等分に切り、縦に適当な太さに切る。それをさっと水洗いし、水気を切り、酒をふりかけ30分～1時間ほど置く。
- ②ニンジンもスルメと同じくらいの長さに切り、全体に塩・砂糖をふり軽くもむ。30分～1時間ほど置き、水で塩気をしっかりと洗い流す(パリッとなります)。
- ③鍋に漬けだれの材料を入れて、火にかけて沸騰する直前に止めて冷ます。冷めたら①②を入れて混ぜ、軽く落とし蓋をして2～3日漬け込む。

■材料／ニンジン：Mサイズ1本半～2本
スルメ：1枚 塩・砂糖・酒：少々
◎漬けだれ(しょうゆ：100cc 砂糖：大さじ2分の1
みりん・酒：小さじ2分の1)
※漬けだれは各家庭の好みで調整してください。